

交流事業・思い出

軽井沢旅行

雨の軽井沢

一向に明けそうもない梅雨の中、今年の軽井沢はとても寒く、最初に夜は研修室にヒーターをいれたほどでした。それでも、7月18日（金）午後の霧の中の離れ山ハイキングも、19日（土）夜の花火とすいかわりも、奇跡的に晴れ間さえみえた20日（日）昼の渥美理事長別荘でのBBQも、予定通りこなせたのは、渥美財団関係者の日頃の行いが良いからとしか考えられません。今年は、第12回SGRAフォーラム in 軽井沢も同時開催

され、18日の夜には、ベトナムのタンロン大学のファン・ムイ教授から、ベトナム地方都市のごみ処理と、少数民族の環境衛生教育についての活動報告があり、その後ムイ先生の日本留学時代（つまりベトナム戦争の頃）のお話を、同期生で留学生



支援運動を行った（財）アジア学生文化協会の工藤正司常務理事から伺いました。翌日午後の「環境問題と国際協力：COP3の目標は実現可能か」というフォーラムでは、ゲスト講演を外岡豊埼玉大学教授にお願いし、SGRA 研究員6名が研究調査報告を行い、京都議定書を中心とした地球温暖化問題について考えました。温暖化問題を論議するには少し寒かったですが、特別ゲストの早稲田大学の木村建一名誉教授、韓国高麗大学の李鎮奎教授、（財）鹿島美術財団の原嘉男常務理事、そして、ソウルから参加して下さった李來賛一家、ボストンからの梁興国さんをはじめ、軽井沢旅行に参加した約60名の新旧渥美奨学生やSGRA関係者は、雨に濡れる緑の森の中でゆったりとした週末を過ごしました。

離れ山ハイキング



花火&スイカ割り



セミナー&フォーラム



BBQ

